

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870400425
法人名	有限会社 ファミリエ
事業所名	グループホーム橙園
所在地	愛媛県八幡浜市保内町宮内 1 - 5 8 3 - 1
自己評価作成日	平成22年12月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年1月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・介護理念を職員全員が理解できるようになり、まじめに日々の介護に取り組んでいる。
 ・利用者さん・ご家族の思い・意向・希望を知り、それをケアプランにしっかり組み入れている。ケアカンファレンスで全職員に伝え、意見も聞き、利用者さんに応じた対応が出来るよう勉強を続けている。介護記録に短期目標を入れており、記録にも書き込んでいる。常にニーズに沿った介護が出来るよう努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

入居間もない頃は、しばらくの間は「家に帰りたい」というような思いが強い方もあり、その際は、職員が徒歩や車で付き添うことを繰り返し、ご本人が徐々にホームで安心して生活できるよう見守っておられる。
 ご本人の希望をご家族に伝え、毎週、市外から娘さんが来られて、居室で夕食を一緒に食べる利用者がおられる。その際は「食も進み、いい顔」をされるようだ。利用者がご家族等へ年賀状を出すことを支援されたり、男性利用者からの希望で行きつけの理髪店に、毎月職員と出かける方もいる。「家に帰りたい」と言われる利用者には、時には、事業所でおにぎり弁当を作って、ご自宅まで送り、数時間をご家族と過ごせるよう支援されており、時間になったら迎えに行くようにされている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名

グループホーム 橙園

(ユニット名)

水仙

記入者(管理者)

有馬 房子(管理者)
山下 直子(介護計画作成者)

氏名

評価完了日

平成22年 12 月 20 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 日常での家事を日課として手伝って頂いている。出来ない 部分は職員が補い、少しでも個々の能力を活かした生活 を送っていただけるようにしている。 業務カンファレンスの時など、地域密着型サービスの意義の 勉強会などを開き、職員全員で確認している。橙園介護理 念に沿った介護が出来るよう職員全員で頑張っている。 (外部評価) 事業所は、開設時から理念を「心身に障害があっても 私らしく あなたらしく 心豊かに 人としての尊厳を守る介護」と決め、玄 関や事務所に掲げておられる。新人職員は、3ヶ月間、利用者との 関わりの中で感じたことを「気付きノート」に記入するようになってい て、管理者やリーダーが返答を書く際に理念を伝えておられる。管 理者は、日頃のケアの中や毎日の訓話、カンファレンス時等で理 念について語っておられ、全職員で実践に努めておられる。事業 所は、地域の人達と「持ちつ持たれつのお付き合い」を大切にさ れ、利用者が「地域の住民として生きる」ことを支えておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 民謡や読み聞かせ、詩吟・音楽療法などのボランティアや、 保育園の子供達との交流。 バザーや神社清掃への参加など、交流を図っている。 (外部評価) 利用者は、職員と一緒に地域の行事に多く参加されていて、地域 の方達との交流を楽しまれている。事業所の夏祭りは、日赤奉仕団 の人達が、ボランティアで屋台を担当してくださったり、地域の方達 やご家族もお手伝いをしてくださり盛大に行われた。秋には、地域 の保育園の園児達が、お祭りのはっぴ姿で訪問してくれたり、小学 生の訪問があった際は、一緒に歌を歌ったり、折り紙を折って交流 された。又、事業所には、音楽療法等、地域のボランティアの方達 の訪問もよくある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議の中で利用者さんの活動報告を通して、認知 症介護の取り組みなどを示している。また、橙園夏祭り、地 域行事への参加、地区行事「文化のつどい」に利用者さん が作成した作品を出品したりしながら、グループホームでの 生活を知ってもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 区長・婦人会・老人会・民生委員・日赤奉仕団・利用者家族など、多数の参加がある。「橙園だより」にて活動報告や研修報告等を示している。また、参加者全員より意見や感想を頂いている。</p> <p>(外部評価) 3月の会議は「橙園5周年記念行事」として、事業所の行事や取り組み、日々の暮らしぶり等「5年間の軌跡」を多くの写真を用いて展示して紹介された。地域の人達やご家族等、100名近くの参加があり、お茶会の接待は、利用者もお手伝いをされたようだ。会議は、地域の方が多く参加してくださっており、ボランティアに来てくださっている方や、介護相談員、ご家族3～4名、他の介護施設の職員の参加もある。会議では、事業所の現状や取り組み、研修の報告を行い意見や感想をいただき、話し合いをされている。又、外部評価結果や目標達成計画も具体的に報告されている。ご家族からは「安心してお任せしている」と感謝の言葉が多いようだ。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市のグループホーム連絡会が2ヶ月に1度、開催されており、毎回出席している。その都度テーマを決め、他の事業所と意見交換し、担当者アドバイスや指導を受けている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議と夏祭りを同日に開催した際、参加された地域包括支援センターの担当者から「橙園は、しっかりと地域と関わっておられると感じた」と感想をいただいた。市の実地指導では、介護計画作成やモニタリングの方法について、アドバイスをいただき、早速採り入れておられた。毎月、介護相談員2名の訪問があり、利用者とお話しながら要望等を聞き取ってくださっている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 業務マニュアルの中に「身体拘束廃止マニュアル」がある。各ユニットにあり、スタッフは常に目を通すよう心がけている。玄関の施錠は基本的にしない。外に出ようとする利用者には止めるのではなく、その人に付いて行くという姿勢を取っている。</p> <p>(外部評価) 利用者が玄関を出入りして事業所の周辺を散歩される様子がうかがえた。時に近所の方から、散歩中の様子を知らせてもらうこともある。気ままに出て行かれる利用者もいるが、職員がそっと付き添い「ご本人の目的」をさりげなくお聞きしてみて「帰る」というような場合は、その時々に応じ、そのままご自宅まで一緒に歩いて、家を確認してからホームに戻るような支援もされている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 園内でミニ勉強会を開いたり、園外での研修にも必ず参加している。ミニ勉強会・研修会、全て研修報告を出し、全職員の前でも発表している。虐待防止についても職員全員に周知徹底されている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 地域包括支援センターほか、研修には必ず参加し理解を深めて、必要なときに支援が出来るように努力している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入退居時、利用者さんと、その家族に時間をかけて管理者および介護支援専門員、担当者より説明させていただいている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) さわやか相談員2名の方が毎月1回、来園され利用者さんの様子を見学したり、お話を聞かれている。ご家族の方には面会の時や、電話などでその都度意見や要望などを伺っている。 (外部評価) 利用者ご本人の状況は、ご家族の来訪時や電話で報告されている。医療に関わることは、看護師資格を有する職員が連絡されている。又、2ヵ月に1回「橙園だより」を発行しておられ、外出や行事、日々の様子を写真入りで伝え、職員の研修報告もされている。地元の方の利用がほとんどで、ご家族の面会も多くあり、事業所の行事は、ご家族にも案内して、毎回参加されるご家族もあるようだ。橙園5周年行事時、ご家族にアンケートを取り「一人ひとりの利用者の意向をよく聞いて介護してほしい」との意見があり「すべての職員が一致協力して利用者個々の願いを叶えてあげられるよう努力すること」を職員全員で話し合い、さらに運営推進会議でも報告された。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>毎月1回、運営委員会が開かれ、行事ほか、すべての運営に関することを話し合ったり、意見を出し合っている。また、賞与時の自己評価の中に、このような項目があり、全職員が記入している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>事業所に「リハビリ」「介護計画」「安全整備」等の委員会を設置して、委員の職員を中心に積極的に意見を出し合い、事業所の取り組みについて話し合われている。職員同士でシフト等を補い合い、外部研修にも積極的に参加されている。特に「認知症介護」の研修は、経験年数の浅い職員が優先で受講できるようすすめておられる。</p>	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>自己相互評価をしており、個々の勤務状況を把握し、賞与面でプラスにしたり、希望休を取り入れたりすることで働く意欲につながるよう考えている。</p>	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>全職員、それぞれ自分に適した研修に参加し、知識を高める努力をしている。新人職員は利用者への対応で感じたこと、自分なりの考え等を記入し、管理者やリーダーより意見をもらっている。</p>	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>他事業所の運営推進会議出席。自施設へ招待している。</p>	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>利用前の事前面談をしっかりと行っている。本人と向き合い、傾聴の姿勢でしっかり思いや要望などを聞き、不安を少しでも取り除いて頂く努力をしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>事前面談をしっかりしている。サービス担当者会議として、園長・医療連携・看護師・担当者などが、ご家族の方の要望・希望をしっかり受け止め、不安を少しでも解消してもらえるよう努めている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>事前面談などで、ご本人やご家族の思いや希望、ADL、現在の状況をしっかり聴き取る。 当園はデイサービスも併設しており、居宅のケアマネさんの力も借りて、様々な対応を考えている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日頃の声かけが、指示にならないように注意し、1人ひとりの意志や気持ちに沿った援助が出来るよう心がけている。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>面会時には、利用者さんの日頃の様子やエピソードなどもお話しすると喜ばれる。ゆっくりお話して頂けるよう心遣いする。外泊される時は準備を職員と一緒にする。電話の援助も行い、その際もご希望を聞いたりしている。散髪を甥と行かされている利用者さんもいる。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>面会や電話、手紙等で定期的に関わりが持てるような機会を作っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご本人の希望をご家族に伝え、毎週、市外から娘さんが来られて、居室で夕食を一緒に食べる利用者がおられる。その際は「食も進み、いい顔」をされるようだ。利用者をご家族等へ年賀状を出すことを支援されたり、男性利用者からの希望で行きつけの理髪店に、毎月職員と出かける方もいる。「家に帰りたい」と言われる利用者には、時には、事業所でおにぎり弁当を作って、ご自宅まで送り、数時間をご家族と過ごせるよう支援されており、時間になったら迎えに行くようにされている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者さん1人ひとりをよく観察し、把握して特徴や利用者さん同士の馴染みの関係なども知り、作業やレクリエーションなどに誘導し、いい状態になれるよう支援している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他の施設に行かれても、その施設の様子などを知らせてもらったこともある。退居された御家族から連絡があったり、病院へ行かれた方などはお見舞いに行く事も多い。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者さんの思いや希望をしっかりと知ってケアプランを立てている。ケアカンファレンスにて職員全員が検討して、さらに思いや願い、意向がつまっているプランを提供出来る様に努力している。	
			(外部評価) 利用者の思いや意向は、日々の会話やご本人が発する言葉、行動や表情の変化から把握できるように努めておられる。入居間もない頃は、しばらくの間は「家に帰りたい」というような思いが強い方もあり、その際は、職員が徒歩や車で付き添うことを繰り返し、ご本人が徐々にホームで安心して生活できるよう見守っておられる。	この一年間事業所ではご本人の思いを大切にしたい支援に努められたが、職員は、利用者個々に応じた対応ができるように「もっと利用者の思いや願いに近づきたい」と思っておられる。今後さらに、意思表示が難しい利用者や思いを表すことを控えるような利用者についてもアセスメントを工夫して、さらなる利用者らしい暮らしの支援につなげていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) サマリーや入居のためのアセスメントをしっかりとっている。ケアカンファレンスなどで、職員全員が把握するよう心がけている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 1人ひとり全員に日課表を作成している。また、1日2回のバイタルチェックも行っており、それら全て24時間の活動表(排泄・食事・活動ほか、生活の全て)にて把握できている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>月に一度、ケアカンファレンスを実施。スタッフ一人ひとりに意見を出してもらい、それを元に作成している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご家族の意見や要望は、来訪時や電話でうかがい、介護計画に採り入れておられる。又、モニタリングは、3ヵ月ごとに行っておられ、日々の介護記録から介護計画に沿った内容の記述を抜粋してモニタリングして、必要に応じて介護計画の見直しをされている。市の実地指導時「本人の思いを最優先にした介護計画の作成」について、アドバイスをいただき、採り入れておられた。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>介護記録用紙に個々の短期目標を入れており、その目標に沿った介護と記録が出来る様、工夫している。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>帰宅願望のある利用者には、電話をかけたり、職員と一緒に手紙を書いたり、急に外泊することになった時にも対応している。家族同行の受診、甥と一緒に馴染みの理容室へ続けて利用できるよう支援している。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>地方祭への参加、地域の文化祭に自分たちの作品を出展したり、芸能のつどい、歌謡ショーを見に行っている。園の夏祭りには地域住民・子供達・ボランティアさんなどの交流の場となる。毎月ボランティアさんの訪問がある。保育園・小学生・中学生の訪問もある。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	利用者さん、ご家族と話し合っ、かかりつけ医を決定している。希望にて家族同行受診も行っている。定期受診・突発的な受診の援助も行っている。毎月1回往診、2ヶ月に1回の往診援助も行う。医療連携体制がある。	
			(外部評価)		
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)	毎日、夜勤者から看護師に申し送りがあり、それにより日勤者に助言・指示がある。夜勤者へは日勤の看護師より申し送りがある。その他、利用者さんの状態変化により随時報告している。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価)	当施設は医療連携がある。病院の医師や連携室とつながっている。入・退院時など、御家族との連携は蜜に行われている。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	終末ケアについて勉強会などで話し合っている。本人やご家族の思い、意向・希望などを知って、看護師を中心に連携を取る。医療機関とも連絡を密にする。当ユニットでは終末に向っている利用者さんとまさに向き合っている。4週間に1回の往診がある。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事業所内でのミニ勉強会・消防署での研修などに参加し、応急手当や初期対応の訓練を受けている。事故発生時、急変時の対応マニュアルもあり、よく見えることに示している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の消防署も入っての訓練を行っている。その時、地域の方も参加される事もある。地区の訓練にも参加している。 (外部評価) 避難訓練は、年2回「夜間」「地震後の火事」等、想定を替えて行っておられ、利用者や地域の方も参加されている。その際に、消防署の方から、利用者を毛布で包んで引っ張ったり、毛布で担架を作る方法を教えていただいた。又、介護度が重度の利用者を優先して避難させるようアドバイスをいただいた。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日中は、1人ひとり自由な雰囲気と思い思いの場所で過ごされている。当園は利用者さんへの言葉かけについては強く指導されている。ミニ勉強会も開いて、尊厳を守る言葉かけに努めている。 (外部評価) 利用者に「してあげる」気持ちを持たない、「上から目線」や「禁止的な言葉」「命令口調」の言葉かけはしないことを職員で話し合い、心がけておられる。調査訪問時、職員は、利用者の方に方言交じりのやわらかい言葉で、ゆっくりと話しかけておられた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 一人ひとりに合わせた声かけをしている。そのために本人の思いや希望を職員がしっかり知り、日々の観察の中にそれらを汲み取り、働きかける努力をしている。誕生日には本人の食べたいメニュー等聞いたりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人・ご家族の願いをしっかりと、ケアプランに反映している。 起床時間・食事時間なども、その方の体調やペースに合わせてい る。その他、作業や体操等もその方のその日のペースにあわせて いる。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価) 馴染みの理容室があり、毎月1回、職員と甥の同行にて、その理容 室で散髪できるよう支援している。 「その洋服似合ってますね」など、1日に1回は褒め言葉をかけ、お しゃれを忘れないよう支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) その日のメニューの食材を切って頂いたり、お皿に盛り付けて頂い たりと、準備や後片付けも利用者さんと協力し合っている。	
			(外部評価) 献立は、併設デイサービスの栄養士が立て、それに沿って事業所 で職員が調理をされている。利用者の要望は、事業所の「給食委 員会」から栄養士に伝わり、反映されるようになっている。昼食前 には、みんなで、単語や早口言葉を言って、その後に「ゴックン」と唾 を飲み込む等の口腔体操をされていた。男性の利用者が代表で 「いただきます」とあいさつをされ、職員も利用者の間に入って同じ 食事を一緒に食べておられた。職員は「 が残ってますよ」と器 に残っている料理を案内されたり「もう少し小さく切りましょうか」と声 をかけて残さず食べられるように支援しておられた。お茶碗とお箸 は、ご本人専用の物を使用されている。食後は、利用者それぞれ が、持ち運べるだけの食器を下膳しておられる様子がうかがえた。 又、「利用者が調理をする日」を作り、利用者が三角巾とエプロン を着けて、手作り餃子や巻きずし、カレーライス作り等の一連にかか わり、調理を楽しむことができるよう支援されている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者さん1人ひとりに合った量や盛り付け(カレーはかけず別々 になど)をしている。水分を取りにくい方は「水薬ですよ」と伝え飲ん でもらっている。水分しか摂れない利用者さんも1000~1300ccく らいは摂ってもらえるよう努力している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 毎食後、声かけにて利用者さん1人ひとりに合った口腔清潔の方 法で口腔ケアを行っている。就寝前には義歯の利用者さんは洗浄 介助をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握し、職員全員が一致した対応をしている。 下着汚染がなくなったり、夜間の失禁がなくなったりした。 (外部評価) 職員は、利用者個々の排泄パターンを把握し、声掛けをして誘導されており、日中は、ほとんどの利用者がトイレで排泄をされている。排泄チェック表には、パット等の汚染の有無も記録し、パット等を汚さないことへの支援にも心がけておられる。利用者の排泄のサインは職員で共有し、より適切なタイミングで誘導ができるよう取り組んでおられる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 独自の排便チェック表を使用して、個々の排便パターンを知り対応している。起床時、お茶を飲んでもらったり、水分摂取をしてもらうために色々な方法をとって対応している。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 独自の入浴チェック表を作っている。入浴拒否の様子が見られる時は入浴剤を入れて「温泉に行きましょう」と声をかけたり、「ちょっと来て下さい」とそのまま浴室へ誘導したりなど、声かけを工夫している。入浴中はおしゃべりをしたり、歌を唄ったり楽しい雰囲気をつくっている。 (外部評価) 入浴は、毎日午後にお湯を沸かし、利用者に希望等を聞きながら支援されている。現在は「毎日入りたい」と希望される方はいないようで、個々に週に2~3回は入っていただけるよう、声をかけておられる。個々の好みのシャンプーを使用したり、入浴後に化粧水や乳液をつける利用者もおられる。柚子湯を楽しまれたり、利用者の希望があれば入浴剤を入れることもある。ご自分で着替えの準備をされる方も複数おられる。車イスの利用者も職員が二人で介助して、浴槽で温まれるように支援されている。終末期等で入浴が難しい状態の利用者は、毎日、全身を拭いておられる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中、ウトウトしている時は、居室で休息してもらったりする。就寝時間は1人ひとりの状態に合わせている。夜間は巡視を徹底し安心して休んでいただけるよう支援している。眠れない時など「私がずっと居るから安心して休んでください」と声をかけると安心され眠られる事も多い。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ケアカンファレンスに薬の目的・用法、何の為の服薬かなど、毎回看護師より説明がある。毎日の介護記録の表の上に薬の用法・用量を明記しているので確認することができる。服薬介助をした職員が記録に記名して、責任を持って服薬介助をしている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食材切り・盛り付け・食器拭きや洗濯物干し(たたみ)など、出来る事はお願いして、張り合いや自信を持ってもらっている。畑の作業・干し柿作り・しめ飾り作り・針を持って座布団を作ったりと、様々な作業をして頂けるよう支援している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 月1回、馴染みの理容室へ散髪に同行したり、銀行へ同行。園でお弁当を用意し、自宅へ戻って家族と一緒に過ごしたり、隣町まで季節の花を観にユニット全員で出かけた。お弁当はマーケットで自分で選んだ。お花見は他のグループホームとの交流しながら楽しんだ。	
			(外部評価) 利用者は、職員と地域の神社や公民館等の恒例行事や催しに参加されている。春は、併設デイサービスの利用者と一緒に公園でお花見をされた。秋にコスモスを見に出かけた際には、マーケットに立ち寄り、昼食に利用者個々がお好きなお弁当を選んで買い、持っていかれた。気候が良い時期は、事業所の庭や畑に出て、草花を愛でたり、野菜の収穫を楽しまれている。現在、気候のこともあり、終末期を過ごしておられる利用者は、外気に触れるような機会は少ないが、職員は「暖かくなったら、体調に考慮して、庭に出る機会も作りたい」と話しておられた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お小遣い程度のお金を持っておられ、散髪に行った時、自分が出されるのがとても嬉しそう。他の利用者さんは、かなりの額のお金を持たれているが、今のところきちんと理解して管理されている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族にお礼の手紙を書いたり、電話をかけたりに出来るよう支援している。御家族はとても喜ばれ、すぐにお返事を頂く御家族もいる。年賀状は毎年書いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>共有スペースにはソファを置き、利用者さんがくつろいでいる。居間は腰掛けるとよい高さなので、馴染みの利用者さんが顔を寄せ合いおしゃべりを楽しんでいる。ソファやテーブルがあるので少し狭く感じるので、換気や職員の介助中の声の大きさなど気をつけている。季節ごとの花を園の花畑から摘んで飾ったり、ボードや廊下には季節ごとの特徴を生かした飾り付けをしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>一方のユニットの居間に他のユニットの利用者も集まり、リハビリ体操を始める様子がうかがえた。居間の壁には、利用者のご家族等に出された年賀状のコピーとご家族からの年賀状が飾られていた。食堂に続いて一段高くなっている畳の間があり、掛け軸をかけ、椿の花が飾られてあった。昼食後は、居間のソファや、畳の間に腰掛けて個々にくつろいでいる様子が見られた。洗面所に、小花が飾られてあり、玄関等にも季節の花が飾られてあった。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ソファでもリビングの真ん中にある畳の部屋で腰掛けて思い思いに楽しそうに話をされている。畳の上に上がって、何人かで洗濯物をたたんだりするのも日課となっている。畳でゴロンと寝っ転がって休まれていることもある。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>居室は利用者さん1人ひとりの個性やADLの状態に合わせたものになっている。畳にベットを置き、手すりをつけている。床にベット、畳に布団の人もある。御家族が季節ごとに衣類の整理をされる方もある。お孫さんの写真を飾ったり、自分の写真や作品もある。職員と一緒に衣類の片付けをする利用者さんも居る。</p> <p>(外部評価)</p> <p>調査訪問日の昼食後、居室の窓際の椅子に腰かけて、外を眺めておられる利用者やベッドに腰掛けて新聞に目を通して男性利用者の姿がうかがえた。ご家族の写真や、誕生日に職員から贈られたお祝いのメッセージを飾っておられる居室も見られた。職員と一緒に掃除をされる利用者もおられる。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>床から立ち上がりが困難な人には、ベット使用。専用の手すりをベットに取り付けている人もある。廊下・浴室内・トイレ等には安全のため、全て手すりがある。建物は平屋で、ユニットからユニットへ、デイルームへと自由に行き来出来る様になっている。</p>	